

# 各地のたより



## 木工クラフト

### 定番は道具の

### 正しい使い方

〈ふれあいセンター〉

七月三日、ジョン万次郎

の生誕地で有名な高知県土佐清水市中浜の市立中浜小学校の全校児童二九名を対象に木工教室を実施しました。

まず、低学年向けのデジタル紙芝居「森」を活用して、森や木は身近なもので、大切なものであることを理解してもらった後、三年生以下の低学年と高学年に分かれて工作開始です。



鋸刃に注目（中浜小）

低学年の児童は、職員が予め準備したサクラの枝などの輪切りを木工ボンドで貼り合わせて、クマのストラップなどを作りました。高学年は、「道具の正しい

使い方」から入るのが当センターの定番です。ノコギリは手前に引くとき切れるので、軽く押しきつ直ぐに強く引く。剪定ばさみは小枝などの切断用で、小指程度より大きいものはノコギリを使って安全に切る。クラフトナイフ

は大振りすると周囲の人を傷つける恐れがあるので、利き手で握って、一方の材料を掴んだ手の親指で押して切る。彫刻刀の刃先に手を置かない。キリは、足に見たてた木片に落として切つ先が刺さるのを見せ、使い終わったら必ずキャップをかぶせること等々。実演を交えての安全で正しい使い方の指導は、分かりやすく児童も熱心に聞くと先生方にも喜ばれています。

製作を待ちわびた児童は、教わったとおり道具を正しく使ってクマの置物などを作り上げ、それぞれ満足そうな様子でした。後日、「山の先生ありがとう」とかわいいらしい状が届き、同校ではすっかり「山の先生」になってしまったようです。七月一七日は、黒潮町立上川口小学校四年生七名を対象に木工教室を行いました。校舎に入ると校長先生手作りの、児童の俳句が収まった木製の額やサクラの木のカスタネットなど、見事な木工品が目に見え込んできます。そのような環境にあつて

は、教わったとおり道具を正しく使ってクマの置物などを作り上げ、それぞれ満足そうな様子でした。後日、「山の先生ありがとう」とかわいいらしい状が届き、同校ではすっかり「山の先生」になってしまったようです。



宇宙人？（上川口小）

か、児童も木製品にはなじみ深い様子で、予め考えていたと思われる作品に手早く取りかかると、道具を上手に扱う猛者やトンボの羽になるように切つてと職員を悩ませる児童もあり、七人のこぢんまりとした教室ながら、できあがった可愛い子犬や手の込んだカニなど、オリジナルな作品には職員も感心することしきりでした。

両校とも初めての出前授業でしたが、引き続きの森林教室を要請され、森林環境教育の拡がりに手応えを感じての帰路となりました。

### 空飛ぶ種子

〈ふれあいセンター〉

七月一日、土佐清水市立清水小学校の五年生六九名を対象にした森林教室で森林環境教育プログラムの中から「空飛ぶ種子」を実施しました。

まず、植物の種子がどのような方法を使って種子を散布するのかを学習し、風を使って飛ばす植物、動物に実を食べさせたり、種子を付着させたりする植物、水に浮いたり漂わせたりする植物、さやははじけたりドングリのように転がしたりする植物など、植物がさまざまな方法で種子を散布

することを写真で紹介しました。

また、「マツ」や「カエデ」の種子は実物と風洞実験装置を使ってくると回りながら飛ぶ様子を観察しました。

大きな翼を持つ種子「アルソミトラ」がグライダーのようにふわと飛ぶ様子には「おー」と驚きの声が上がりました。

次に、「アルソミトラ」や「マツ」、「ニワウルシ」「ラワン」の種子の模型を色紙やステレンシートを使っ

て作りました。

ステレンシートで作ったラワンの種子模型を輪ゴムで飛ばすと体育館の天井近くまで上がり、くると回りながら落ちてくる様子に「おもしろい」と何度も飛ばしていました。

さっそく「夏休みの自由



種子の模型を作る

研究にしよう」という児童もおり、自然や環境に興味を持ってもらえたと確信しています。

### 夏休みわくわく

#### 自然体験活動

〈香川森林管理事務所〉

当所では、讃岐富士と呼ばれる飯野山において、飯山北地区コミュニティ推進協議会と遊々の森（名称「おじよもふれあいランド」）協定を結んでおり、丸亀市内の小学生を対象に森林環境教育を行っています。

この夏休みにおいては、八月二三日に、飯山北地区

コミュニティセンターにおいて、小学生とその父兄の計四八名が参加し、「夏休みわくわく自然体験活動」と称したイベントを行いました。

はじめに、コミュニティセンター周辺で、ビンゴを活用した自然観察を行いました。児童たちは、細かく、ビンゴのマスに書いた生き物や木の実、においのする物を懸命に探して飛び回っていました。

続いて、ビンゴで拾った落ち葉を使った落ち葉アートを行います。



クラフト作成の様子

赤や茶色の落ち葉を使い、カラフルにラミネートしながらネイチャーアートを作成していました。

最後に、木製キットによるクラフト作成を行いました。初めは慣れない手つきで鋸や小刀を使っていますが、父兄と一緒に参加した児童は、親子でふれあいました。

協力し合いながらクラフトを作成していました。また、クラフトのほかにもオリジナルの木製キーホルダーなどを作成する児童もいて、その創造力豊かな発想には驚かさされました。

児童たちにとっては夏休みの楽しいイベントとなりました。機会があったらまたやりたいとの感想がありました。

「親子木工教室」開催  
〜木笛をつくらう〜

〈四万十森林管理署〉

八月一九日、高知県四万十市の「中村こども劇場」が主催する「親子木工教室」が開催され、当署からは、職員三名が参加しました。

中村こども劇場は、四万十市を中心に一五〇名ほどの会員で構成されており、「こどもたちに知識ではなく、生きぬく知恵や想像力（創造力）豊かに育てほしい」との願いから、舞台鑑賞をはじめ、農業や陶芸などの生の体験を行います。また、市内に「わんぱくの森」を設けて自然活動なども行っています。

今回の催しは、同劇場の夏休み企画の一環として、「こども達に木を使っているいろいろなものを作ること」で、自然素材の暖かさを感じながら、想像力を発揮させ、物を作る機会を与えたい」という目的のもと、四万十市中央公民館を会場に、同劇場に所属する五歳から一歳までの親子約三〇名が参加しました。

代表の開会あいさつのもと、早速、のこぎりやナイフを手に木作業に取りかかりました。

木笛は、音を出すのに微妙な調整が必要で、手伝いをする当署職員の手元を澄んだ瞳でじっと見つめるこども達の視線に、職員も緊張している様子でしたが、音が鳴ると歓声と笑顔が広がる光景が見られました。

また、こども達の自由なアイデアによって、キーホルダーやネックレス、ヘラクレスカブトムシやオオク



楽しい木工教室でした

そのときに少しでも  
森林や林業  
に目を向け  
てくれる良  
き理解者で  
あり協力を  
とってく  
れることを  
心待ちにし  
ています。

ワガタなどの制作を夢中になつて行い、創造性豊かな木工作品がたくさん出来上がりました。  
こども達は趣向を凝らした作品を制作するなかで、木に触れることにより、木の持つ暖かさや柔らかさ、物づくりの楽しさやおもしろさ、香りや手ざわりなどを感  
じる事ができました。幸いけがなく、みんな  
で後片付けをして無事終了し、夏休みの一日を過ご  
しました。今回参加してくれたこども達も一〇年後には私  
たちの大きな仲間  
に成長します。



どろんこで、地域交流

「フォレストーズ」は安芸署の福山選手の華麗なシュートが決まりましたが、惜しくも初戦敗退してしまいました。一方の「えいじ軍団」は、気合いと賑やかさはどのチームにも勝つていますが、前日の懇親会の疲れからか、後半はスタ

私達も、一回戦突破に向けトライしたいと思えますので、見かけた方は応援してくださいね。

九月二日、恒例の「どろんこサッカー」が、今年も愛媛県愛南町で開催されました。私達、森

日本の夏、泥まみれの夏  
どろんこで地域交流  
〈愛媛森林管理署・  
四万十森林管理署〉

林管理署からも愛媛署、四万十署はもろろん、安芸署、嶺北署、香川所から選手が集まり、日頃、履き慣れている森林作業用地下足袋から田んぼ用の足袋に履き替え、「フォレストーズ」と「えいじ軍団」の二チームが参加しました。

毎年、地域の方々との交流を楽しみに参加しています、参加しても試合を観ても楽しい大会です。また、地元産品(米・ブドウなど)の販売もあり、皆様方も、一度、足を運んでみませんか。